

ゆず農家 やまさき よしお 山崎 吉生さん

JAとさかみゆず生産部会副会長。地元出身者で一旦は県外に出たが24歳でのUターンをきっかけに家業を継ぎ、26歳で独立。

実家が農家で、Uターンした年にゆずを栽培していたため、ゆず農家の道を歩みはじめました。今、香美市物部町は、県内では生果ゆず60%のシェアを誇る、生果ゆずの一大産地となっています。急傾斜地が多く水はけも良い、ゆず栽培に適した地形で育ったゆずは、出荷後傷みにくいという特徴もあります。ゆずの生果そのものを出荷する「玉出し」は、皮に傷がないことや形の良さなど、高品質が絶対条件。私たちは全国ブランドの生果ゆず産地として高品質な玉出しにこだわり、ブラン



「物部のゆずブランドは絶対に守りたい」と熱く語る山崎さん

全国ブランドのゆず
地域の力を集約して
もっと振興させたい

香美市を描く 無限大のチカラ

ドの維持、発展を図るよう日々努力しています。とはいえ、この品質・生産量を確保することも課題となっています。私もゆず農家として30年を超え、高齢化の波を感じています。180名ほどの農家のうち、30代40代の若手が20人ほど。後継者を育てる取組に力を入れる他、改植により園地を若返らせることで品質向上につなげています。若手のみなさんには、この40年間変わらず受けている評価を維持しつつ、時代に合った挑戦を期待したいですね。物部町のゆずでなければ欲しくないといわれる品質を受け継いでほしいです。生果ゆずは品質にこだわる分、栽培も大変ですが、その分やりがいもあります。今後も地域全体で、高品質のゆず栽培を進めていきます。

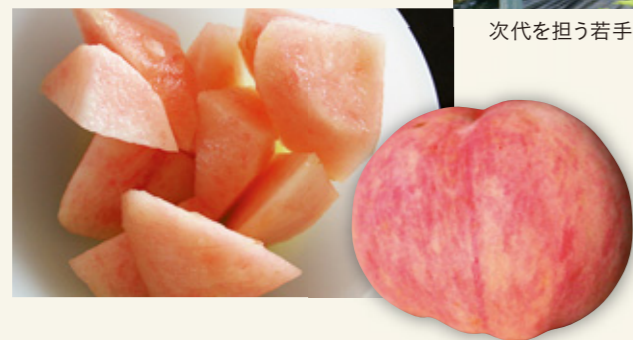


繁藤ストックヤード



次代を担う若手農家

予約注文だけで売り切れる
幻の桃「かりかり桃子」



若手の力を 地場産業の振興へ

出

荷量日本一を誇るゆず玉をはじめ、食感が特徴の桃「かりかり桃子」、ニラ、やっこねぎ、大葉などの農業や林業といった産業が根付く香美市。移住体験やゆず狩りなどの体験型観光、補助金制度の充実、県が開校する「高知県立林業学校」、林業就業支援講習の実施などで、担い手の育成とさらなる産業振興をめざし、近年、若い農業者の活躍やUターン者の新規就農者が増えつつあります。また、高知工科大学や高知テクノパークといった、新たな産業の活性化に取り組む大学や工業団地があるのも特徴です。高知工科大学では県内の方と地域活性化について意見交換を行う「地域連携カフェ」や、外国人観光客向けの龍河洞多言語案内アプリの開発などが実施されるなど、豊かな資源に若手の力が加わり、産業の可能性が大きく広がっています。

高知工科大学の学生が龍河洞多言語案内アプリを開発



高知テクノパーク



地域活性化を学ぶ地域連携カフェ



主に東京、名古屋、大阪方面で販売されるゆず玉の出荷量は日本一